

中国人民大学での研修を通して

法文学部法経学科

L144054 中井大二

私は、中国人民大学や中国での研修で「中国と日本の同異な点を実際に体験する」というテーマをもって臨みました。中国を訪れる前は、中国と日本は違って、そのために反日デモなどがたびたび起こるといったイメージを持っていました。しかし、実際に中国を訪れてみると、日本で持っていたようなイメージはなくなりました。そして、私が感じた中国と日本の似ているところは、人との関りです。当たり前前のことですが、面白ければ笑うし、困っていると助けてくれるというような当たり前前のごようではなかなかできないことがむしろ日本にいるときよりも多く感じました。日本と中国で異なる点は、やはり交通や大気汚染の問題だと思いました。特に、一番驚いたのは空気が汚れているため昼間の空が晴れているというのにも関わらず、空が日本という晴天ではなかったことです。

また、認識という面からの違いとして、中国が日本に対して反日の気持ちの根本にあると思ったことは、三日目に訪れた村での出来事から感じたことでした。そこで、「村の一部は旧日本軍によって壊され、人も殺されたから日本人をよく思わない人もいるからね」という言葉を聞き、自分たち日本人(現在の)の中では戦前の日本がしたことはあまり関係ないという心があるが、被害を受けた人の中では昔の日本=今の日本という関係が成り立っていると思いました。このような中国の方の気持ちは徐々に薄まっているが、なくなってしまうために反日というものが生じ、私たち自身も忘れてはならないことだと感じました。

さらに、私が日本と中国が現時点で異なると感じたのは、「人の気持ちの強さ」です。人民大学の学生と話をしても意思の強さや学ぼうという気持ちが日本の学生よりも強いと思いました。私自身これから将来の不安などで方向性を少し見失っていたのですが、自分のやりたいことをできることのありがたみを実感することができ、いますべきことに全力で取り組もうと感ずることができました。

上記したようなことは島根大学の関係者、関先生、藤本先生、倪卉先生、前森田さん、王さん、中国人民大学の先生や生徒のみなさんのおかげで得られたことだと考えており、感謝しております

